

生徒の3人も、あこがれの人がいるけれど思いをうまく伝えられず、誤解される言葉で表現したりしていました。自

表れと原田さんはとらえています。性的な言葉を言うことがありますが、年齢から考えて当然の興味の

原田さんは、「かっこいい大人」の世界として、あこがれの人への思いを大事にしなが、自分や他者を理解して、表現する授業を考えました。相手

し、内省的に生きる」としました。原田さんは、デートを「かっこいい大人」の世界として、あこがれの人への思いを大事にしなが、自分や他者を理解して、表現する授業を考えました。相手

安心感・信頼感を育てること。そして、めざす大山さんの姿は、「人に働きかけて（話しかけて）現状を変え、人を愛し、内省的に生きる」としました。

①自分の意図と他者の意図との葛藤に折り合いをつけられること。②言葉・数の概念を形成すること。③イメージ、つむりの世界を豊かにし、好きな活動をつくること。④他者に対する安心感・信頼感を持ち、孤独感を和らげられること。⑤性の知識の理解やふれあいの活動を通して、「愛されている（受けとめられている）自分」を感じ、他者に対する安心感・信頼感を育てること。そして、めざす大山さんの姿は、「人に働きかけて（話しかけて）現状を変え、人を愛し、内省的に生きる」としました。

原田さんは、大山さんの人権要求・能力要求と、病棟の看護師さん等の教育要求「穏やかで、安定した生活が送れる」をまとめて、目標を次のように考えました。

①自分の意図と他者の意図との葛藤に折り合いをつけられること。②言葉・数の概念を形成すること。③イメージ、つむりの世界を豊かにし、好きな活動をつくること。④他者に対する安心感・信頼感を持ち、孤独感を和らげられること。⑤性の知識の理解やふれあいの活動を通して、「愛されている（受けとめられている）自分」を感じ、他者に対する安心感・信頼感を育てること。そして、めざす大山さんの姿は、「人に働きかけて（話しかけて）現状を変え、人を愛し、内省的に生きる」としました。

授業「デートを申し込もう」

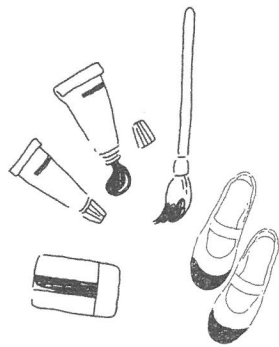
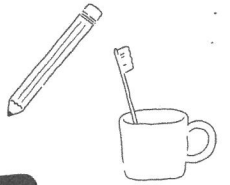
分の「こうだ」「こうしたい」という思いが広がって、ほかの人の要求や集団の活動とぶつかることができました。

がタブー視されていないでしょうか。そんななか、「恋愛を学ぶことは教育目標になるのか」。これを正面から問うたのが、兵庫で長く教師をしてきた原田文孝さんです。

原田さんは、長い間病棟で過ごしてきた3人の生徒と、原田さんを含め3人の先生とで、「デートを申し込もう」という授業にとりくみました。実践の場所は病棟内です。訪問学級での実践です。

生徒の一人の大山さんは、8歳で入院し、40年以上病棟で生活してきて、この時50歳です。肢体障害が重く、首は座っています。自力での座位・移動はむずかしく、車いすを使って移動します。左手は自分でゆっくり動かして帽子を脱ぐことができ、右手も左手ほどではないですが動きます。食べ物や介助する人の好き嫌いがあり、意図が実現しないと怒ります。学校へ行きたい、国語がしたいと言うなど、学ぶこと、学校文化への要求があります。性的な言葉を言うことがありますが、年齢から考えて当然の興味の表れと原田さんはとらえています。

ねがい ひろがる 教育実践



神戸大学

川地亜弥子

かわじ あやこ／研究テーマはわかる・楽しい・感動のある授業づくり、安心できる集団づくりについて。編著に『実践、楽しんでますか？—発達障害からみた障害児者のライフステージ』（クリエイツかもがわ）など。

第9回 恋うる心を授業にする

生きていくために必要なものとはなんでしょう？ 権利に関する学習の一環で、ある中学校で話し合った時、担任の先生は「一番大事なものは水や空気だろう。なかったら死んじゃうんだから」と話しました。するとある生徒が「先生、それはちがいます。一番大事なものは、愛し愛される権利です」とこたえました。思春期頃から、人に思いを寄せ、また寄せられることの質がぐっと変わってくるように思います。幼児期でも、一番仲のよい友だちがいたり、ラブレターを渡したり受け取ったり、結婚を約束したりすることがありますが、小学校低学年頃まではクラス（基礎的な集団）が変わると自然とその関係も解消されることが多いです。その後、個人差はありますが、クラスが変わってもずっとその関係を大事にするような「この人！」という親友、恋人、好きな人ができるようです。

恋愛を学ぶことは教育目標になるのか

さて、愛し愛されることについて、学校では、家族や友だちは大事にしようと言いますが、恋人になるとどうもちがう扱いになります。そもそも恋愛すること

に思いを伝えるための表現力や積極性が育ち、相手が応えてくれる場合はもちろん、失恋した場合にも思い通りにならぬ人間関係を学ぶ場になると考えました。

授業は次のように構想しました。①デートのイメージを広げ、学習の見直しをもつ。②相手に自分のことを知ってもらうために自己PRをする（自己認識を高める）。③相手の好きなことや嫌いなこと、自分に対する思いやねがいを知って他者認識を高め、自分がしたいことを組み合わせて、デートプランを立てる。④デートプランに合わせて、模擬デートをし、表現力を高める。⑤実際に相手にデートを申し込み、デートをする。

いよいよ授業です！ 大山さんは、デートの学習の話をすると、とてもうれしそうにしました。「デートでどこに行こう？」と尋ねると「陽子先生（仮名）とデートしたい」。いつもの入院病棟を出て、外来病棟の売店で一緒に買い物をする、というプランを考えました。

模擬デートの日は大山さんの体調が良くなかったのですが、陽子先生の写真を見るときと目覚めてきました。

原田さんは、「キスしてと手をつないでとどっちを言う？」と尋ねました。そ